

SAKASO

「さかそう」



特集 ▶ 先生と相談員に聞いてみよう

在宅医療と美希先生の 想いのこと。



2020.8 Vol.43

おしらせ

禁煙外来のご案内



「何度も禁煙に失敗してしまう」「そろそろタバコをやめたい」と思い続けている、喫煙者の皆さん。

タバコをやめられないのは“意志が弱いから”という理由だけではありません。ニコチンの作用(薬物依存)や心理的依存も作用しています。

また、最近普及してきた「加熱式タバコ(電子タバコ)」にも、紙タバコと同様にニコチンなどの有害物質が含まれているのを知っていますか? 加熱式タバコが安心・安全という医学的根拠はないのです。

正しい知識を身に付けながら、医師とともに禁煙治療を始めてみませんか? 禁煙はタバコ代を節約しながら健康まで手に入れられる“いいこと尽くめ”です。

主な診療内容

- ① 診察前の問診
- ② 診察
- ③ 呼気一酸化炭素濃度の測定
- ④ 禁煙実行、継続に向けてのアドバイス
- ⑤ 治療薬の処方

■ 治療期間／約3ヶ月・計5回の通院

■ 費用／合計 約13,000円～20,000円(保険適応)

問合せ

坂総合病院 健康管理室

☎ 022-367-9053(直通)

診療予約・変更・お問合せ

まずはコールセンターへお電話いただき
ご確認をお願いいたします。

コールセンター 022-361-8288

● 平日 8:30～16:30(小児科のみ8:00～)

● 土曜 8:30～11:30(小児科のみ8:00～)

※日曜・祝祭日、年末年始(12/30～翌年1/3)、8/16(お盆)は休業。

◎紹介状をお持ちの方は、必ずその旨をお伝えください。

◎上記時間以外で救急診療のお問合せは、病院代表番号
(022-365-5175)にお電話をお願いします。

詳細はwebサイトでもご確認いただけます。

坂病院 <https://www.m-kousei.com/saka/>



電車の場合 ▶ JR仙石線・下馬駅下車。駅前が当病院です。

お車の場合 ▶ 第三駐車場は、当院ご利用の方は無料です。
第三駐車場と病院間の送迎バスを運行しています。

表紙について

美希先生が子どもの頃から続けている書道。
力強い文字から実直な人柄がうかがえます。そしてこの素敵なお笑顔! カメラの後ろには撮影を
盛り上げる在宅医療チームの姿がありました。

●表紙撮影／坂総合病院

SAKASO

坂総合病院 広報誌[さかそう]
2020年8月1日発行

S 坂総合病院

〒985-8506 宮城県塩釜市錦町16-5 <https://www.m-kousei.com/saka/>
【広報誌に関するお問い合わせ】Tel 022-365-5175(代)



毎回特集内容を変え、
病気や病院のあれこれを発信。

今回は、「在宅医療への想い」を
ご紹介します。

塩釜市を中心に地域の
医療を支える坂総合病院。
適切な治療と高度な技術で
人々を支えています。
今日は、チームで取組む
在宅医療の今と
想いについて聞きました。

特集

先生に
聞いてみよう

在宅医療と 美希先生の 想いのこと。



佐藤 美希 (さとう みき)

福島県出身。東北大学医学部卒業後に坂総合病院へ入職。現在は看護師、クラーク、ドライバーからなる在宅医療室を明るく、明るかに牽引。チーム体制を大切に、院内の様々な科の医師と連携しながら、自宅での治療を選んだ患者さんと地域の医療を支えている。

在宅医療の道を選んだ 学生時代の大きな出会い

通院が困難な患者さんに医療を提供する在宅医療。美希先生が在宅医療と出会ったのは医学生成の頃。そして、ある出会いが在宅医療の医師としての出発点になっています。「私は医者に向いていない」と思っていた時、名取と仙台にある岡部医院の岡部健先生に出会いました。岡部先生は県内における在宅緩和ケアの草分け的存在。現場を見学して、最期まで生きようとする患者さんを支えている先生とスタッフさんの姿を見た時に、「私もこんな医療がやりたい」と思えたんです。さらに、夏休みを利用して、病気のケアをしながら生活を共にしたがん患者さんからの言葉も美希先生に影響を与えます。それは、「美希ちゃん、在宅医療のお医者さんにならね。やっぱり家が一番だから」。この言葉は美希先生が医師としての夢を叶える支えになりました。そして今は、美希先生自身を力付ける原

自宅での治療を願う人へ 疾患制限のない医療を提供

現在は在宅医療室のスタッフとともに往診に駆け回る毎日。その歩みの中で成し遂げたことのひとつが、「診察できる疾患の制限をなくしたこと」です。「私が訪問診療研修を始めたのが2003年。当時の坂総合病院ではがんや重度障害、終末期の患者さんは在宅医療が受けられませんでした。家に帰りたくても病院で亡くなるしかない。この地域に住む人々は家で最期を迎えないのかとショックを受けたことを今でも覚えています。だから「どんな疾患でも受け入れて、自宅に帰りたい」という願いを叶えてあげたい」と思い続けているんです」。今では各専門家の医師たちの協力があり、入院治療も含め、その思いを叶えることが可能になりました。

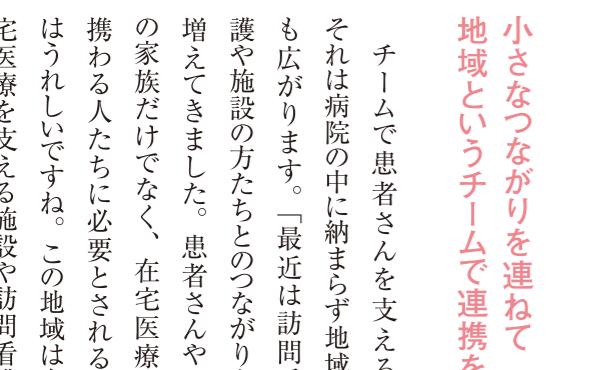
小さなつながりを連ねて 地域というチームで連携を

チームで患者さんを支える。それは病院の中に納まらず地域へも広がります。「最近は訪問看護や施設の方たちとのつながりも増えてきました。患者さんやその家族だけでなく、在宅医療に携わる人たちに必要とされるのはうれしいですね。この地域は在

患者さんが「自宅に帰りたい」という願いを叶えてあげたい

動力になりました。そして今は、美希先生自身を力付ける原

様々なスキルを積み重ね、今まで
求めている患者さんの元に
いつも駆けつける



様々なスキルを積み重ね、今まで

求めている患者さんの元に
いつも駆けつける
佐藤 美希 (さとう みき)
福島県出身。東北大学医学部卒業後に坂総合病院へ入職。現在は看護師、クラーク、ドライバーからなる在宅医療室を明るく、明るかに牽引。チーム体制を大切に、院内の様々な科の医師と連携しながら、自宅での治療を選んだ患者さんと地域の医療を支えている。

#1 真夏のマスク問題

●今号から新連載がスタート。気になる感染症対策についてのトピックをお伝えします。

Q

新型コロナウィルスが流行してからマスクが手放せませんが、暑い夏もマスクの着用は必要ですか？



A

熱中症のリスクを負ってまでマスクを着ける必要はありません。近くにいる人とソーシャルディスタンスを保つことができる場合は外しましょう。マスクの目的は感染者の口から飛沫が出ないようにする“感染コントロール”。布マスクやアパレルメーカーから発売されているマスクでも効果を充分に發揮します。もちろん三密避け、こまめな手洗いは忘れずに！

栄養手帖 ■ -食養室だより-

夏こそ知りたい！香辛料の力

料理においしさを加え、味のアクセントになる香辛料。私たちの身体にも様々な働きをしてくれます。

丹治 歩美 (たんじあゆみ)
食養室 管理栄養士



①料理のおいしさアップ

香辛料の香りで風味が向上。また、辛みや酸味などの味わいが料理のアクセントになります。さらに、黄や赤などの色みが料理の鮮やかさをアップ！

香り付け ▶ シナモン、バジル
辛味 ▶ トウガラシ、ワサビ
酸味 ▶ 柑橘類、タマリンド
色付け ▶ サフラン、ターメリック、パプリカ

②食品の保存性アップ

肉や魚の風味低下や腐敗を防止し、カビや病原菌などの増殖を抑えます。食品中の脂質の酸化を抑える抗酸化作用の効果もあります。

抗菌機能 ▶ ニンニク、カラシ、シソ
抗酸化作用 ▶ コショウ、ナツメグ、ゴマ

③身体の機能を調節

人間の免疫系や循環器系、消化器系などの機能を調節。治療薬として伝承されてきた香辛料の中には、現在も生薬として用いられているものもあります。

消化促進 ▶ ショウガ、トウガラシ、ナツメグ
発汗作用 ▶ シナモン、ショウガ、ニンニク
食欲増進 ▶ コショウ



第15回
事務／がん登録実務者
(診療情報管理士)

坂総合病院を、そして
患者さんを支える人々。
その「人となり」に迫ります。

がん登録実務者の仕事は、がん患者の症例を探す「ケースファインディング」をはじめ、登録項目の情報収集・入力、がん登録データの届出を行うこと。がん登録は国内のがん診療の実情を測るための仕組みとあり、柏谷さんは「常に登録漏れがないように気を付けて仕事をしています」と話します。「中でもケースファインディングは、日々の膨大な診療情報から抽出して症例を探すという地味で大変な作業。法制化されてから登録する際のルールに改定があったので、さらに注意するようになっています」。しかし、その地道な作業の末に探し出したデータが、がん診療実績を確認する会議資料などに活用されることもしばしば。「がん治療にも力を入れる当院。今後も先生やスタッフに役立つ情報を提供することで貢献していきたいです」と意気込みも教えてくれました。

次号は

村田 紘
(ティケアボランティア)



がん診療の判断基準や病名のコードについてまとめたガイドブック。様々な判断を求められる柏谷さんの傍には常にこれらの本が置かれています。



柏谷 遼太 (かすやりょうた)
事務／がん登録実務者
(診療情報管理士)

高橋 順子 (たかはし じゅんこ)
在宅医療室看護師

当クリニックの在宅医療室は、強化型在宅療養支援診療所と在宅緩和ケア充実診療所を合わせて140名前後の患者さんを管理。院内外からは年間100名ほどの患者さんを受け入れています。診療圏はクリニックから6km圏内。通院が困難な方、在宅酸素療法・人工呼吸器管理の方、がん終末期の緩和ケアが必要な方など、幅広い患者様を受け入れています。

方のもとへ訪問しています。佐藤美希医師をはじめ看護師5名、クラーク・ドライバーの計8名と人数は少ないですが、職場は常に笑いが絶えません。仕事とプライベートとの両立を図る「ワーク・ライフ・バランス」を重視し、協力体制を取っています。



連携医のご紹介 ささき内科・呼吸器科 クリニック

[内科、呼吸器科]



院長
佐々木 泰夫 先生
(ささき やすお)



内科、呼吸器科
ささき内科・呼吸器科クリニック

〒985-0042
宮城県塩竈市玉川1-3-30
TEL 022-365-6201
FAX 022-365-6202

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00 - 12:00	○	○	○	○	○	○	
14:30 - 18:00	○	○	○	/	○	/	

休診日／日曜、祝日 [8月13日(木)～15日(土)はお盆休診]

※木・土曜は午前のみ診察。このほか臨時休診あり



開院して16年目になりました。内科・呼吸器科を標榜していますが、内科一般では高血圧症、脂質異常症、糖尿病の患者さんが多いでます。また呼吸器疾患では風邪、急性気管支炎、慢性閉塞性肺疾患の診察を行う中でも気管支喘息の患者さんが圧倒的に多く、興味を持つて診察にあたっています。

実は医者になつて数年は喘息の患者さんが嫌で、喘息以外の呼吸器疾患を専門にしたいと考えていたほどでした。しかし、喘息の研修を行つた恩師が気管支喘息を心身医学的に診て治療する

気管支喘息を心身両面から考える

様子を見て、気管支喘息を主体的に診る呼吸器科医になりました。また、有名な心療内科で喘

息も診療する医師の論文に「喘息の永続的な寛解（自然治癒）を早め、その難治化を予防するために、すべての症例を最初から心身医学的に身体面と心理社会面について診断し、その発症と経過に心理社会的因子が密接に関与していることが明らかな症例には心身両面より治療を勧めるべきである」とあり、一からこの疾患を診ることができるのは開業医だと考えるようになり、現在に至っています。

いつも多くの患者さんをご紹介してくださる佐々木先生。それだけに留まらず、医局での催し事にも積極的に参加していただいています。気管支喘息について熱く語る佐々木先生からは、当院の呼吸器科科長であった頃と変わらない患者さんの強い思いを感じます。今後ともよろしくお願ひいたします。

坂総合病院から

この連携医として、私はこれまで多くの患者さんと向き合ってきました。患者さん一人ひとりの個性や背景を尊重しながら、心身両面からのアプローチで治療を進めてきました。患者さんの人生そのものに触れることができた瞬間でした。

連携し、24時間体制を取っている私たち。心掛けているのは、その場限りの診療ではない継続した医療です。また、当院で以前から取組んでいる「無料低額診療」を訪問診療にも適応し、在宅療養を希望する人や生活困窮者も支える体制を整えています。先日、訪問看護ステーションから「患者さんの呼吸が止まつたようだ」との連絡を受け、最期の診察を行いました。好きだった物に包まれ、好きだった服に着替え、ご家族から若い頃の話をうかがつて…。患者さんの人生そのものに触れることができた瞬間でした。

